

2001年度から2002年度にかけてお迎えした客員教授の陳其南先生は、同志社にいらした折は、台湾の国立交通大学社会科学院の院長でしたが、滞日中に行政院の政務委員（閣僚ポスト）に任命され、急遽帰国されることになりました。そこで、2002年度にご担当いただく予定であった大学院の国際比較研究と社会学理論研究は、厳しい政務の合間をぬって来日され集中講義の形式でご担当頂きました。

2002年度より、情報社会学の担当で藤本昌代先生が社会学専攻のスタッフに加わり、計量的方法の陣容はさらに厚みを増しました。大ハッスルで取り組まれた社会調査実習では、大変熱心に指導をされ、歴代では最大のページ数になる調査報告書をまとめられました。「パワフルな先生」という評判がすっかり定着しました。

2002年5月からは、新たな社会学大学院教育の一環として琵琶湖リトリートセンターで合宿を始めました。同月末に開かれる関西社会学会で報告を予定している院生が全員発表と質疑応答の練習をしました。いわば、公開スパーリングの場で、本番の報告に備える実践的な訓練を始めました。これは、社会学専攻の新しい伝統になりました。

なお、今年度は湯浅俊郎さんが博士論文を提出し博士号を授与されました。博士前期課程では5名が修士論文を提出し修士号を授与されました。入れ替わって後期課程に3名、前期課程には4名が入学します。 (立木)

## 2002 年度 博士論文題目

氏 名	論 文 題 名
湯 浅 俊 郎	戦後の都市社会形成過程における同郷者ネットワークの研究 ——神戸亀津会、阪神但東会、大阪加賀浴友会を 事例として——

## 2002 年度 修士論文題目

栗 駒 美木子	働く女性における化粧観・化粧意識の分析 ——年齢、職種別による聞き取り調査を参考にして——
荒 木 菜 穂	女性によるポルノグラフィ消費の現象とそのフェミニズム的 意義
黒 宮 亜希子	就労参画意識の決定因に関する質的および量的研究 ——仕事と子育ての両立志向を高める心理・社会的要因 とは——
田 中 睦 美	ワーカーズ・コレクティブの研究 ——農村女性の就労意識をめぐって——
李 献 恵	中国の人口政策と社会問題

## 執筆者紹介

立木 茂雄 (たつき しげお)

同志社大学文学部教授

家族社会学、市民社会論、防災学

tatsuki@gold.ocn.ne.jp

杉本久未子 (すぎもと くみこ)

大阪人間科学大学講師

地域社会学、環境社会学

kumisugimoto@ohs.ac.jp

宍戸 邦章 (ししど くにあき)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程

家族社会学、老年社会学

kuniaki@oak.ocn.ne.jp

黒宮亜希子 (くろみや あきこ)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士前期課程

家族社会学、社会福祉学

akuro@db4.so-net.ne.jp

荒木 菜穂 (あらかし なほ)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士前期課程

ジェンダー論、セクシュアリティ論

(執筆順、所属は 2003 年 3 月 31 日現在)

## 「同志社社会学研究」編集規定

1. 本研究誌は同志社社会学研究学会の機関誌として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。
  2. 掲載内容は以下のものとする（枚数：400字）
    - 研究論文（40～60枚）
    - 研究ノート（20～30枚）
    - 学会・研究動向（10～20枚）
    - 書評・紹介（10～15枚）
    - 研究室だよりなど
  3. 編集委員は本学社会学専攻教員、同院生及び同卒業生の代表により構成される。
  4. 投稿者は本学社会学専攻教員、同院生、同修了・卒業生とする。
  5. 原稿は未発表のものに限る。掲載の可否は、専門のレフリー（本学教員＋外部の専門家各1名）の審査の結果を受け、最終的に編集委員が行う。
  6. 原稿の締め切りは12月末、発行は翌年3月とする。
  7. 執筆要項  
横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参考文献の書式は日本社会学会機関誌「社会学評論」に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。
  8. 提出原稿の形式  
題目は日本語と英文タイトルをつけ、フロッピー1枚とハードコピー（40字×40行）を3部提出。（フロッピーは1.4MBを使用し、MS-DOS及びMACのテキストデータとする。）
- \*その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。

## ◆編集後記◆

『同志社社会学研究』第7号をお届けします。

同志社大学大学院社会学専攻が設置されて、今年で10年になります。本専攻で大学院生として研究活動に打ち込み、研究者として活躍される方が増えて参りました。本号には、2000年9月に本学で博士号を取得され、現在大阪人間科学大学にお勤めの杉本久未子先生の研究論文を掲載いたしました。今後とも、本学を修了された方や院生のますますの活躍を祈っております。

本号は、シンポジウムでの講演を基にした立木茂雄の論文、杉本久未子先生と博士後期課程の宍戸邦章さんの研究論文、さらに本年度博士課程前期を修了した学生の研究ノートの合計5点で構成されています。

掲載内容に対する皆さまのご意見やご批判は、本紙の向上に必要な不可欠なものです。お読みいただき、是非、ご批判・ご意見・ご感想等をお送りいただきますようお願い致します。  
(立木)

## ◆編集委員◆

立木 茂雄  
尾嶋 史章  
飯田 剛史  
吉岡 威史  
吉田 崇  
宍戸 邦章  
綾部美和子

同志社社会学研究 第7号

2003年3月20日発行

発行人 同志社社会学研究学会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3441

FAX. 075-251-3066

印刷 協和印刷株式会社